



三重県の事業概要 ～三重県立子ども心身発達医療センター～

～子ども一人ひとりが、その子らしく豊かな人生をおくるために～

【1】地域概要

- ・自治体担当課課：三重県子ども・福祉部子育て支援課
- ・児童数：254,803名(R3.10.1時点)
- ・児童精神科系医師数：不詳
- ・児童精神科のある医療機関：不詳

【2】拠点病院・機関概要

- ・拠点病院：三重県立子ども心身発達医療センター
- ・事業実施科名：児童精神科
- ・事業開始年：2008年
- ・子どもの心の診療機関マップ実施：実施なし

【3】事業実施への経緯

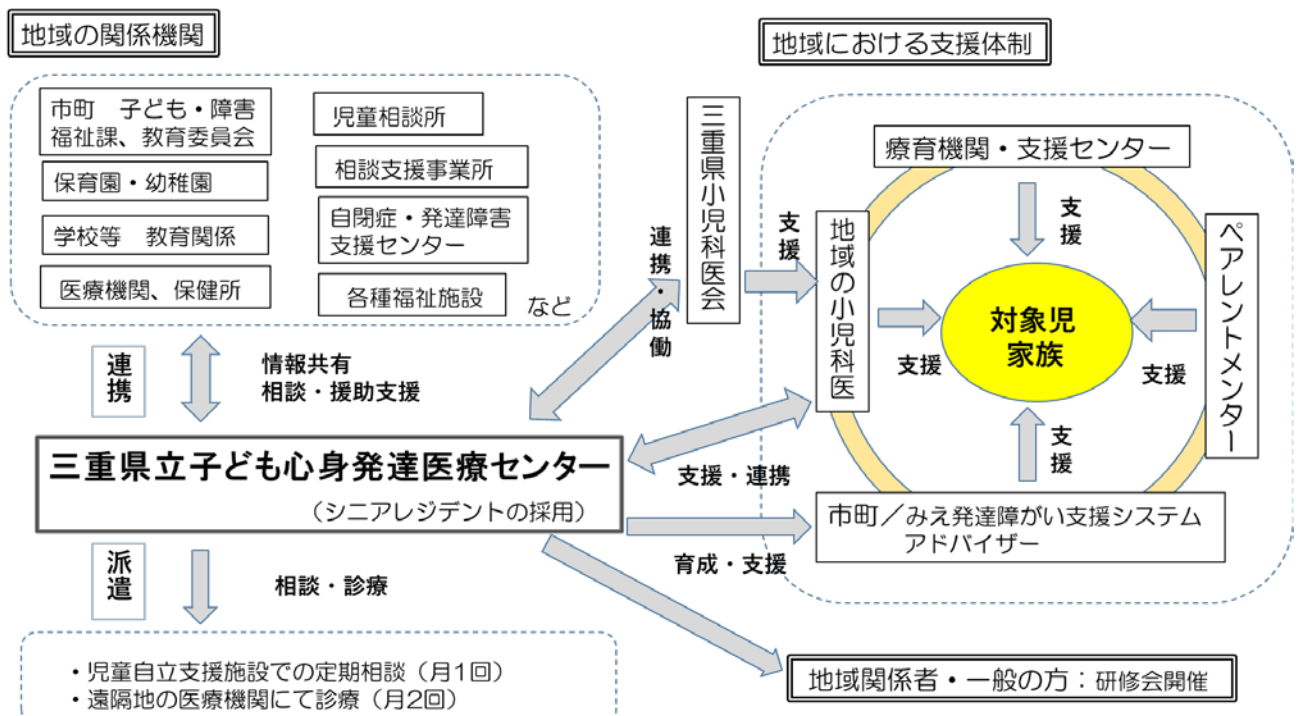
当センターの前身である三重県立小児心療センターあすなろ学園は、設立当初より県内の児童青年精神科臨床のセンターとして、地域への医師派遣、シニアレジデント制度による児童精神科医師の養成、研修会の開催、市町の人材育成などの地域支援を担ってきた。2008年からは子どものこころの心療拠点病院事業を経て、この事業を開始した。

2017年には三重県立子ども心身発達医療センターが開設され、引き続きこの事業を活用し、社会のニーズに合わせながらあすなろ学園時代の業務を取り組むと共に、地域の小児科医に対する研修会なども取り組み始めた。



三重県の事業概要～三重県立子ども心身発達医療センター～

【4】事業図



【５】実施事業の概要

- ①子どもの心の診療支援（連携）事業
 - (1)関係機関の個別事例に関する医療支援
 - 児童自立支援施設のカンファレンスに対する医師派遣
 - 東紀州地域でサテライト診療実施
 - (2)地域の教育・保健・福祉関係機関との連携会議の開催
 - 外来通院中及び入院中のケースについて関係機関を集め、支援方法を検討するケース会議を実施。入院ケースは全ケース実施。
- ②子どもの心の診療関係者の研修、育成事業
 - シニアレジデントの受け入れによる児童精神科医の育成 1名(R1～R3)
 - 地域の小児科医向け発達障がい連続講座の開催 8回開催
 - 各市町で発達支援を担う人材（みえ発達障がい支援システムアドバイザー）の育成 計17名(R1～R3)、CLMコーチの養成 計6名(R1～R3)
 - 各市町に発達支援のためのツールとして「CLMと個別の支援計画」を提供・普及
- ③普及啓発・情報提供事業
 - 関係機関・一般県民向けの研修会の開催（年1回）

【６】特徴や特に力を入れている事業内容

センターの前身であるあすなろ学園時代からの自閉症等発達障がい支援のノウハウを活かし、みえ発達障がい支援システムアドバイザーの育成、CLMと個別の支援計画の普及など、NPOと協働しながら市町の支援を行っている。
児童精神科の初診待機期間の短縮および、地域に生きることがより早期に身近な医療機関で、直接的な支援を受けられることを目指し、地域の小児科医に発達障がいに関する研修会を実施、地域における支援ネットワークづくりの支援をすすめている。

【７】地域や関係機関との連携の状況

- ①入院児・外来児に関する関係者会議の実施
 - 実施回数： R1 100回 R2 99回 R3 90回
 - 連携機関：市町の子ども、障がい福祉関係部署、教育委員会、幼稚園保育園、学校、福祉サービス事業所、児童相談所等
 - 実施方法：会議の実施、電話での情報交換、事業所見学・訪問
 - 参加職種：医師、看護師、福祉系職種（保育士等）精神保健福祉士、併設分校教員
- ②児童自立支援施設におけるケース検討への医師派遣 月1回
- ③地域医療機関への医師派遣 月2回

【８】事業による効果と思われるもの(Ｈ28-30年度からの改善点など)

各市町に発達総合支援室・機能が整備され、子ども心身発達医療センターで養成したみえ発達障がい支援システムアドバイザー、CLMコーチが増えたことにより、地域支援が進んだ。

地域の小児科医に対する発達障がい連続講座を開催することにより、可能なケースは初診待機児を地域の小児科医へ紹介することを開始できた。

【９】目指す方向性について (今後の予定事業や展望、目標など)

- ①地域小児科医との事例検討会等を実施し地域での診察を行う医師を増やすことで初診待機期間の短縮化を図る。
- ②地域での相談機能の充実を図るため、各市町の発達障がい支援システムアドバイザーの養成し、地域支援ネットワークを構築する。
- ③地域の小児科医や市町にて支援中のケースが対応困難になった場合、優先的に初診を受け付ける。
- ④安定しているケースについては連携可能な地域小児科医への紹介も検討する。